

都市再生整備計画
まちなか地区(第八回変更)
(地方都市リノベーション事業)

ながさき ながさきし
長崎県 長崎市

平成29年12月

・様式は、A4長辺側を、2箇所ホチキス留めすること。

様式1 目標及び計画期間

都道府県名	ながさき 長崎県	市町村名	ながさき 長崎市	地区名	まちなか地区(地方都市リノベーション事業)	面積	270	ha							
計画期間	平成	25	年度	～	平成	29	年度	交付期間	平成	25	年度	～	平成	29	年度

目標	
大目標:まちなか地区の都市拠点機能を高めるとともに、交流の拡大のため、まちなかの賑わいを創出する。	
目標1	都市拠点機能として、行政、福祉、医療機能を高める
目標2	安全・安心・便利なまちなかを創る
目標3	地域の魅力を向上させ、賑わいと交流が生まれるまちなかを創る
目標設定の根拠	
都市全体のリノベーション方針(都市構造再編を図るため、都市機能の拡散を防止する等の公的不動産のマネジメントも取り組みを含む)	
長崎市は、平成17年度の合併により、市域面積が拡大され、長崎港奥部を核とする同心円構造及び旧町村核による多核構造となり、人口減少が進んでいるにもかかわらず、市街地の拡散傾向が続いている。また、これらの核についても、長崎都市圏の中心となる核や、地域の日常を支える核もあり、核の規模や機能も異なっているため、それぞれの核の規模や機能に応じて、都市構造の再編・再構築を行うことが必要である。	
長崎市においては、今後の人口減少や超高齢化社会に対応するため、それぞれの核ごとにまとまりのある暮らしやすいコンパクトな市街地を形成し、それらの核同士を道路ネットワーク、公共交通ネットワーク、情報ネットワークで結ぶことで、持続発展可能な都市を構築することを目標としており、その中でも長崎都市圏の中心となる当地区を含む地域は、長崎市のみならず、長崎県の中核機能の集積地として高いレベルの商業・業務・行政・福祉・医療などのサービスを提供する都市拠点として「中核核」に位置付けられている。	
この「中核核」において、その一部に位置付けられている長崎駅周辺地区では、長崎の「陸の玄関口」として、九州新幹線西九州ルート整備や土地区画整理事業などが行われ、また、松が枝地区周辺では、長崎の「海の玄関口」として、港湾機能の充実を図るための松が枝国際観光光埠頭整備が計画されるなど、都市基盤施設の整備や交通機能の強化が行われ、拠点機能の充実やさらなる交流人口の増加が見込まれる。	
そこで、「中核核」の中心である「まちなか地区」においても、公共サービス機能の拠点性を高める医療機能の集約や、福祉、子育て、くらしの交流機能を高める公共施設の整備を行い、都市拠点機能の強化を図るとともに、観光・歴史・文化遺産等の魅力の顕在化や回遊性の向上による、観光交流機能の充実と商業振興による経済機能の活性化を図ることで、「中核核」の拠点機能をさらに高め、暮らしやすいコンパクトな市街地の形成を目指すこととする。	
公的不動産の活用策として、民間の土地を有効活用し、病院の機能を拡充するとともに、老朽化した県、市庁舎等の建て替えに併せてその跡地へ現在の都市機能に不足している施設の立地を検討するなど、中心市街地の内部で移転建て替えを順次行うことで、都市機能の拡散防止と公共不動産の有効活用を図っていく。	
まちづくりの経緯及び現況	
長崎市は、江戸時代には西洋に開かれた唯一の貿易・文化の窓口として、近代以降は海運国日本を支える造船業を主として栄え、国際社会の中で重要な役割を果たしてきた。また、昭和20年には原子爆弾による惨禍を被ったことから、戦後は、核兵器廃絶と世界恒久平和を訴える国際平和文化都市としての役割を果たして。長崎市の市街地は、長崎港に注ぐ中島川周辺や浦上川沿いの南北に細く連なる比較的平坦で商業・業務機能が集積した地域と、長崎港に面して山腹を這い上がるように形成された斜面市街地からなり、独特な都市景観を創り出している。	
長崎市の「中核核」の中心である「まちなか地区」は、中心市街地として、商業の活性化や、居住環境の整備等によるまちなか居住の推進、歩いて楽しいまちづくりを基本とした交流人口の増加などの施策に取り組んでいる。このような中、浜町エリアマネジメント協議会の発足や当地区の定住人口、交流人口の増加に一定の効果をもたらしている。	
一方で、今後、長崎市の医療機能、福祉機能、子育て機能等の生活機能の拠点強化や、安全・快適に利用できる公共空間の整備、歴史・文化遺産の活用、良好なまちなみ景観形成を図るなどのまちの魅力向上により交流人口の拡大を目指す必要がある。	
課題	
<ul style="list-style-type: none"> ・長崎市の中心として、高次医療機能、子育て機能が不足している。 ・まちなか地区は固有の歴史を背景に、独自の文化、賑わい、経済の中心として「長崎をけん引するエンジン」にあたる地域であるが、定住人口の減少や郊外店舗の進出などにより、商業機能の活力が低下している。 ・少子高齢化が進み、今後の伝統的な祭りの維持や自治会活動などコミュニティ機能の低下が懸念されている。 ・町家や洋館など象徴的な建造物の喪失やその周辺の景観が悪化している。 ・まちのいたるところに埋もれている有形無形の様々な魅力的な資源が十分に活かされていない。 そのため、当地区の医療、子育て機能の強化を図り、ハード・ソフトの両面から、それぞれのエリアの特性に応じたまちなみの魅力向上やまちなかの回遊性向上に寄与する各種事業を継続して展開していく必要がある。	
将来ビジョン(中長期)	
【総合計画】	
1.長崎市第四次総合計画において、将来の長崎市の都市像を「個性輝く世界都市 希望あふれる人間都市」と位置づけ、その実現のための基本施策として「景観、まちなみ、自然を活かし、まちの質を高める」、「暮らしやすいコンパクトな市街地を形成する」、「道路・交通の円滑化を図る」「安心できる医療環境を充実する」などを掲げている。	
2.長崎市都市計画マスタープランにおいては、「都心部における賑わいと活力ある都市づくり」という基本目標を掲げ、主な市街地整備方針として「中核管理機能、交通拠点機能、文化機能、医療・福祉機能などの集積、充実を図るとともに、中心商業地にふさわしい賑わいと活力のある魅力的な都市空間の形成を図り、長崎市の中核核として整備する。」としている。	
3.上記のビジョンを実現するための重点プロジェクトとして、当地区の今後10年間の取り組みを「まちぶらプロジェクト」として策定し、まちなかの賑わいを高め、魅力の顕在化や回遊性を促すための基盤整備等を実施する。	

リノベーション事業の計画

都市機能配置の考え方

- ・本地区は「中枢核」の中心として、商店や企業の支店等を中心とした経済機能、公立病院、図書館、市民ホール等の公共公益機能、路面電車やバスターミナルといった公共交通機能などの集積地として中枢機能を有していると同時に、歴史的な文化遺産や伝統を数多く残し、それらを活かした観光交流機能も有している。しかし、近年の人口減少、少子高齢化や郊外の大型商業施設などにより地域の活力が低下していることから、公共公益機能の再編・再構築により拠点性を高めるとともに、歴史・文化遺産のさらなる活用による観光交流機能の充実および商業振興による経済機能の活性化を図る。また、今後、整備が進む長崎駅周辺および松が枝周辺と公共交通ネットワークなどで結ぶことで連携を図り、交通結節点としての機能を高めるとともに、さらなる都市機能の充実を図る。
- ・本市北部の浦上、住吉に位置付けられる「主核」では、鉄道、バス、路面電車などの主要な交通拠点として、中枢核に次ぐ商業、業務、行政、医療・福祉などを提供する都市拠点として整備を行っていく。
- ・中心部から離れた、各地域の日常を支える核である「地域核」、「日常核」では、日常的に利用する生活サービスの集積を図ることとしており、日常生活を支えるサービス機能、地域コミュニティの維持・増進機能を高めていく。

目標を達成する上で必要な「地方都市リノベーション推進施設」「生活拠点施設」の考え方(民間事業者による事業継続の見込みや民間事業に対する行政の支援等を含む)

中心市街地に「中心拠点区域」を設定し、区域内にある市立病院及び隣接する私有地を活用し、同市内にある成人病センター機能を併せた新市立病院を建設し、従来よりも病院機能を高めた施設を整備する。

地方都市リノベーションに必要なその他の交付対象事業等

- ・道路整備(市道浜町伊良林1号線、市道鍛冶屋町古川町1号線、市道古町麴屋町1号線、)
本地区の中心となるまちなか軸へのアクセス性の向上及びまちなか軸を中心とした地区全体の回遊性の向上を図ることで、本地区の魅力の顕在化させ、また、歩車道の整備を行うことで、歩行者等の安全を確保し、安全安心なまちづくりを行う。
- ・公園整備(中島川公園)
長崎の歴史・文化の重要な地である出島と一体となる中島川公園の整備を行うことで憩いの場を整備し、また、魅力の顕在化を行うことで交流人口を増加させる。
- ・地域生活基盤施設(誘導情報案内板)
交通拠点や主要動線および地区の魅力である観光施設を中心に誘導情報案内板の整備を行うことで、地区の回遊性を向上させる。
- ・高質空間形成施設
まちなか軸及びその周辺に位置する道路等の景観の向上や魅力の顕在化、憩いの空間を創出することで、地域の快適性の向上を行うとともに、まちなか軸へのアクセス性を向上させ、地区全体の回遊性を向上させる。
- ・優良建築物等整備事業
公共施設の再編により良好な環境整備や賑わいの創出を行うことで、拠点機能を向上させる。

目標を定量化する指標

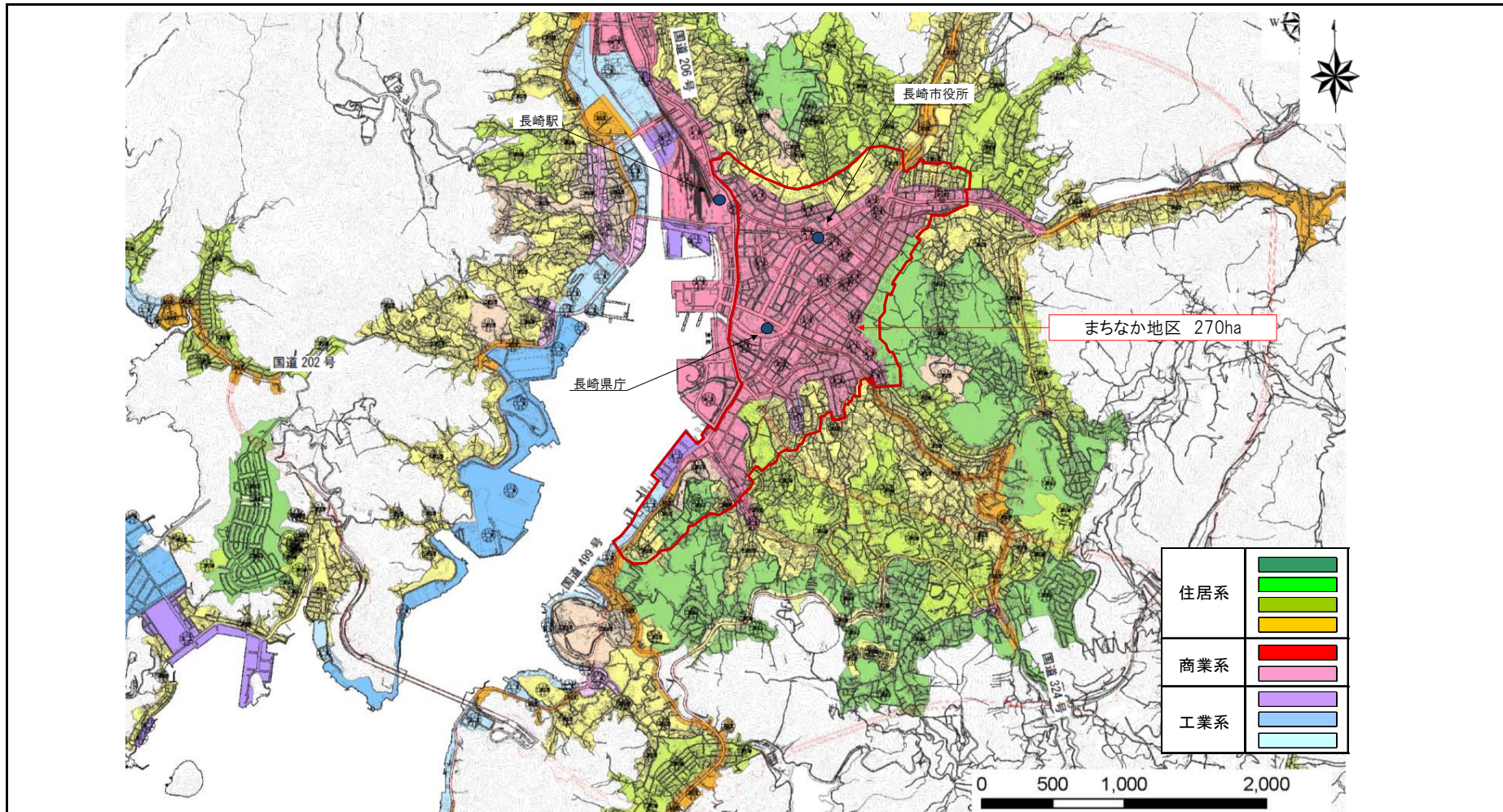
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値	
				基準年度	目標年度	
歩行者交通量(まちなか地区)	人	歩行者交通量調査(まちなか6地点合計 日曜;10~18時)	整備による、市民、観光客等の回遊数の減少率の緩和	44,141人	H23	39,900人 H29
グラバー園・出島・歴史文化博物館・県立美術館の入場者数	人	施設の年間入場者数(4施設合計)	整備による回遊性向上による、入場者数の増加	2,141,022人	H23	2,143,000人 H29
定住人口(まちなか地区)	人	住民基本台帳登録人口(まちなか地区)	整備による安全性・快適性の向上による、定住人口減少率の緩和	31,427人	H23	28,600人 H29
地域医療中核施設の外来患者数	人	新市立病院(H26.2までは市民病院)外来患者数	高次医療機関の整備による外来患者の増加	124,864人	H23	200,000人 H29

様式2 整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>【都市拠点機能として、行政、福祉、医療機能を高める】 長崎市の中核として位置付けられている本地区の行政、福祉、医療の都市機能を高めるため、行政機能の再編・再構築や新市立病院の建設を行う。</p>	<p>●基幹事業 地方都市リノベーション推進施設：新市立病院の建設 優良建築物等整備事業：魚の町地区優良建築物等整備事業</p>
<p>【安全・安心・便利なまちなかの創出】 歴史・文化・観光・商業など長崎固有の多様な魅力が詰まったまちなかの人の回遊を促すため、新大工、中島川・寺町、浜町・銅座、館内・新地、東山手・南山手からなるまちなか軸を中心に、「歩いて楽しいまち」にするための整備を行い、交流人口を増加させる。 ・歩行者の歩きやすさを確保しながら、まちの特徴にあわせた回遊路の整備など。 ・市民や観光客が安心して、快適にまち歩きができるよう、誘導情報案内板の整備など。</p>	<p>●基幹事業 道路：(市道浜町伊良林1号線、市道鍛冶屋町古川町1号線、市道古町麴屋町1号線) 地域生活基盤：(誘導情報案内板) 高質空間形成：(市道浜町古川町1号線、市道魚の町諏訪町1号線、市道大黒町恵美須町1号線、市道五島町恵美須町1号線、市道出来大工町江戸町線、市道江戸町魚の町1号線ほか)</p>
<p>【地域の魅力を向上させ、賑わいと交流が生まれるまちなかの創出】 長崎のまちは、1570年の開港後、町建てが行なわれ、幕末にかけて、都市の骨格が形づくられた。都市機能の更新が進む中でも、その骨格は今なお残り、歴史的建造物も多く残っている。町家や洋館などの歴史的建造物は、長崎における伝統的建築の歴史文化を示す物証として保存し、地域イメージを高める核として活用することが重要である。そのため、まちなかが暮らしと交流の場として再生し、交流人口を増やし、賑わいを高めるため、公園の整備を行う。</p>	<p>●基幹事業 公園：(中島川公園)</p>
<p>事業実施における特記事項</p>	
<p>長崎市歴史的風致維持向上計画策定について(平成29年度策定予定) 長崎のまちは、1570年の開港後、町建てが行なわれ、幕末にかけて、都市の骨格が形づくられ、都市機能の更新が進む中でも、その骨格は今なお残り、歴史的建造物も多く残っている。長崎市中央地区は歴史的建造物、歴史的街並み及び伝統文化が一体となって形成する多種多様の歴史遺産が集積しており、長崎の都市を形成してきた歴史的文脈の中でまちづくりを進めることにより、長崎の歴史的風致の価値をさらに高め、魅力あるまちづくりに寄与することから、都市再生整備計画と合わせて実施することによる相乗効果を期待する。</p>	

都市再生整備計画の区域

<p>まちなか地区(長崎県長崎市)</p>	<p>面積</p>	<p>270ha</p>	<p>区域 元船町、樺島町、万才町、賑町、築町、江戸町、万屋町、浜町、油屋町、銅座町、籠町、新地町、出島町、館内町、中新町、西小島1丁目、伊良林1丁目、寺町、麴屋町、八幡町、伊勢町、新大工町、桜馬場1丁目、諏訪町、桶屋町、古町、今博多町、大井手町、出来大工町、馬町、勝山町、栄町、魚の町、桜町、興善町、古川町、東古川町、銀屋町、船大工町、本石灰町、鍛冶屋町、夫婦川町、片淵1丁目、下西山町、西坂町、大黒町、筑後町、中町、恵美須町、五島町、金屋町、玉園町、上町、八百屋町、炉粕町、上西山町、常盤町、大浦町、東山手町、下町、大浦東町、松が枝町、相生町、上田町、南山手町、小曾根町、浪の平町、尾上町、丸山町、寄合町、梅香崎町、十人町、稲田町</p>
-----------------------	-----------	--------------	---



まちなか地区(長崎県長崎市) 整備方針概要図

目標	まちなかの賑わいを創出し、誰もが歩いて楽しいまちづくりを推進する	代表的な指標	歩行者交通量(まちなか地区)	(人)	44,141人 (23年度)	→	39,900人 (29年度)
			グラバー園・出島・歴史文化博物館・県立美術館の入場者数	(人)	2,141,022人 (23年度)	→	2,143,000人 (29年度)
			定住人口(まちなか地区)	(人)	31,427人 (23年度)	→	28,600人 (29年度)
			地域医療中核施設の外来患者数	(人)	124,864人 (23年度)	→	200,000人 (29年度)

